

シシャモの河川遡上予測について

北海道立総合研究機構
栽培水産試験場

シシャモの河川遡上期について下記のとおり予測を行いましたので、終漁日の決定の際の参考にしてください。

道南太平洋海域のシシャモは産卵期になると、雌の卵巣の生殖腺重量指数（GSI＝卵巣重量÷体重×100）が25、すなわち卵巣重量が体重の1/4に達したころに河川へ遡上を開始することが知られています。そこで、GSIが25に達する日を遡上日として予測してきました。しかし平成24年、25年については、予測よりも早い時期に遡上が見られ、河川内で得られた標本を調べるとGSIは約22で、従来の知見（GSI25）よりも低い値でした。また、今年度の漁獲物のGSI値は昨年と同じように推移していることから（後述）、今年度はGSIが22に達する日を遡上開始日として予測しました。

水産試験場では、平成26年10月6日から10月30日にかけて鶴川沖、日高富浜沖で漁獲されたシシャモ雌（8サンプル・780尾）の成熟度調査を実施しました。10月中旬までの漁獲物のGSI値は平成23年、25年と類似したペースで推移していましたが、下旬になると成熟速度が遅くなりました。10月16日～10月21日のデータを用いて計算した結果、**11月8日ころにGSIが22に達し、遡上を開始すると予測**されました（図1）。一方、さけます・内水面水産試験場が実施している鶴川親魚遡上調査では、予測遡上開始日から数えて2～8日後に河川でのふくべ網の捕獲ピークがみられていたことから、**遡上盛期は11月10日～11月16日ころになる**と予測されます。なお、従来の方法であるGSI25を使って計算すると、遡上開始日は11月15日ころ、遡上盛期は11月17日～11月23日ころになると予測されます。

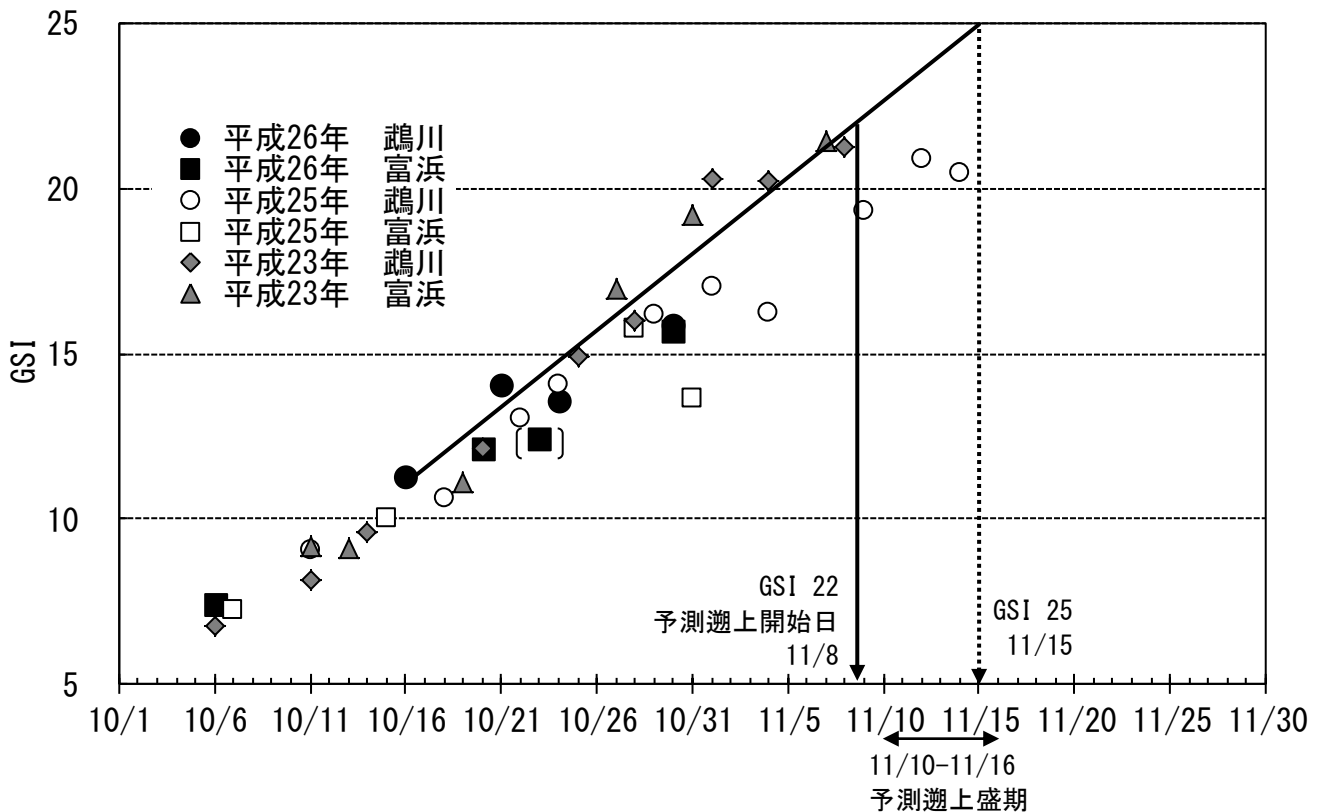


図1 生殖腺重量指数の変化から予測したシシャモの遡上盛期
〔 〕の値は全体の傾向からはずれることから予測には用いなかった。

今年度は、漁期前分布調査の結果や10月の漁獲状況（図2）から、シシヤモの資源状態が非常に悪いと考えられ、資源を維持する遡上親魚量を十分に確保できない可能性があることから、遡上盛期前にできるだけ早く終漁することが望ましいと考えられます。今後は、**鵜川親魚遡上調査（さけます・内水面水産試験場）の結果**を考慮して総合的に判断し、終漁日の決定を検討していただくようお願い致します。

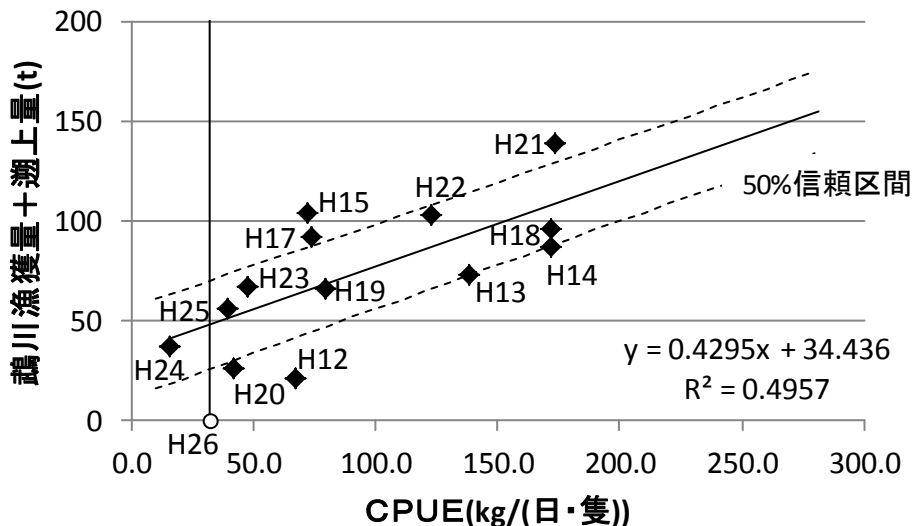


図2 鵜川における10/31現在のCPUE(1日1隻あたり漁獲量)と「鵜川漁獲量+遡上量」との関係

連絡先 0143-22-2327
調査研究部 管理増殖グループ